

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「イオンがコメ生産」
- 2) 「オリエンタルランド、野菜農園設立」
- 3) 「“みうら食彩ドーナツコンテスト” 優秀賞は三浦キャベツのドーナツ」

1) 「イオンがコメ生産」

イオンは19日、農地を意欲ある生産者に貸す政府の「農地中間管理機構（農地バンク）」を活用して2015年4月にコメ生産を始めると発表した。同日に埼玉県羽生市と農業を担う人材育成などで協定を締結。同市内のイオン直営農場に隣接する11万平方メートルの土地でコメ生産を開始する。15年10月下旬に首都圏のイオングループの店舗で収穫したコメを販売する。

イオン子会社のイオンアグリ創造が生産を担う。コメ生産に向けて同市で新たに約20人を採用する計画。埼玉県が開発したブランド米「彩のかがやき」を中心に栽培。初年度は60トン前後の収穫を見込む。イオンはこれまで全国18カ所の直営農場で自ら野菜を栽培し、安全・安心の食材をスーパー各店で販売している。

政府は企業の農業参入を促し、農地バンクを14年春から全国で稼働させている。耕作していない農地（耕作放棄地）を借り上げて整備し貸し出す制度で、大手小売業で活用するのはイオンが初めてという。

同日、羽生市内で記者会見したイオンアグリ福永庸明社長は「コメ作りは初めてだが、うまくいけばほかの地域にも順次拡大していきたい」と挨拶。同市の河田晃明市長は「コメ生産は羽生市の基幹産業だが、未使用農地の活用が課題になっていた」と話し、イオンのコメ生産を歓迎した。

野菜だけでなく、主食となるコメまで小売業が生産するようになる時代がついに来た。農地の有効活用につながることはもちろん利点だが、消費者と密接な関係にある小売業が参入することで、お客様の声を取り入れながら品質や味を追求していけるということもメリットが大きいと思う。

2) 「オリエンタルランド、野菜農園設立」

オリエンタルランドは12月15日、東京ディズニーランド、東京ディズニーシーで使用するトマト、ミニトマト、パプリカについて、2017年度からの自社生産を目指し、山梨県北杜市の約3ヘクタールの土地に野菜農園を設立することを発表した。

同農園では、室温、湿度、二酸化炭素濃度などの環境を制御するシステムを用いた太陽光利用型の植物工場を設置することで、年間約250トンの野菜類の生産を、季節や天候にかかわらず安定的に行うことが可能。

山梨県北杜市は、国内でも非常に長い日照時間と昼夜の寒暖差を有しており、高品質な野菜類を生産できる地域であることに加え、舞浜から近郊であることから、完熟状態のものを高い鮮度で東京ディズニーリゾートへ供給することができるというメリットを有しているという。

同社は千葉県袖ヶ浦市で野菜類の自社生産を開始しており、山梨県北杜市の農園と合わせたトマト、ミニトマト、パプリカの総生産量は、東京ディズニーランド、東京ディズニーシーの飲食施設における年間使用量を満たし、パークの飲食施設で使用するこれらの野菜類はすべて自社生産のものとなる予定。

食とダイレクトに結びつくイメージがない企業がこうした取り組みを行うと、企業アピールの面でとてもポイントが高いと思う。園内の飲食・物販店には多くの納入業者が出入りしていると思うが、自社で栽培することでお客様にも経路が明確になり安心・安全の訴求がより高まるだろう。“ディズニー野菜”がどのように定着していくか注目したい。

3) 「“みうら食彩ドーナツコンテスト” 優秀賞は三浦キャベツのドーナツ」

三浦半島の食材を使うドーナツレシピを募集した「みうら食彩ドーナツコンテスト」が12月7日、ミサキドーナツ三崎本店で開催された。県やNPO法人が参加する「特命子ども地域アクタープロジェクト」、三浦半島食彩ネットワークが共催。

コンテストには県内各地より35通の応募があり、書類審査を通過した5通のレシピから試作ドーナツが作られた。ネーミングやアイデアなどを評価し、審査員や一般投票により「レシピ優秀賞」を決めた。審査委員長は「かもめ児童合唱団」の青木くるみさん
優秀賞には、草郷緑彩さんが考案した、三浦キャベツの生クリームをデコレーションした「みうらカラフルドーナツ」が選ばれた。選考会には、「三浦の野菜ですりすりドーナツ」「カリフラドーナツ」「三浦 潮の香りドーナツ」「ラブキャロンジドーナツ」など多彩なドーナツが並んだ。

審査員で野菜ソムリエの石川アミさんは「すばらしいドーナツが勢ぞろいした。上位に入ったドーナツは完成度が高かったが、他のドーナツもアイデアに富んでいた。大根やヒジキを使ったドーナツは食事系のもので、今後の可能性を感じる」と話した。

地元の食材を使ったドーナツということで、本当に色々な種類の物が出ている。ドーナツはおやつイメージが強いが、野菜やひじきなどを混ぜ込みうまく行けば別の切り口からも販促として使えるのでは無いかと思った。好き嫌いがある子どもでも、ドーナツに混ぜ込めば気付かず美味しく食べてくれるかもしれない。